

複式学級に於けるソシヨグラムと学級経営

池 田 敏 安

Tosiyasu IKEDA

§ 1 複式に於ける學級經營

同一学齡児童を一集団とする単式学級に比べて、二学年以上を同一学級で教育する複式学級は、長幼学年の集団で学級社会を構成する為、学級経営上種々の問題を孕んでいる。例えば、学習時教師の直接指導の時間が半減し、各個人の計画によつて進められる独自学習や、自分たちの力で資料を蒐め、整理、評価するグループ学習のような自律学習、或は上学年が下学年の学習を指導援助する方法が多くとられる。特に日常生活に於て、上下学年の相互影響が相当大きい。

このように単式学級と違つて多角的な集団生活の為に起る複雑な対人関係についての豊富な経験を持つのが複式の子供たちである。この複雑な環境を持つ複式学級の経営で、この集団生活によく適応しつつ、明朗で建設的な民主的人格形成へ志向する子供たちを育てようと心がけているわけであるが、私は特に、学級集団内における各個人の位置関係に重点を置き、各人が心から楽しんで生活できる事を念じている。その方法に、(1) 教師の観察を綿密に記録する——各児童の性格、能力。(2) 家庭との緊密な連絡——家庭教育の理解とそれに対する指導。(3) 児童の集団生活の実態の把握を基礎として、具体的指導に当つている。この三つのうち、(3) については、ソシヨグラムによつて調査するのもその一方法である。たまたま私の調査したソシヨグラムが、学級経営上貴重な資料を提供してくれるようであつたので、今回はこの問題を中心として、複式学級における学級経営の一方法、或は一着眼点とも云うべきものについて述べてみたい。尚、この学級は、昭和二六年度は一、二年編成の近接学年組合わせ、本学年はそのまま進級して二、三年の複式学級、両学年各一六名計三十二名である。

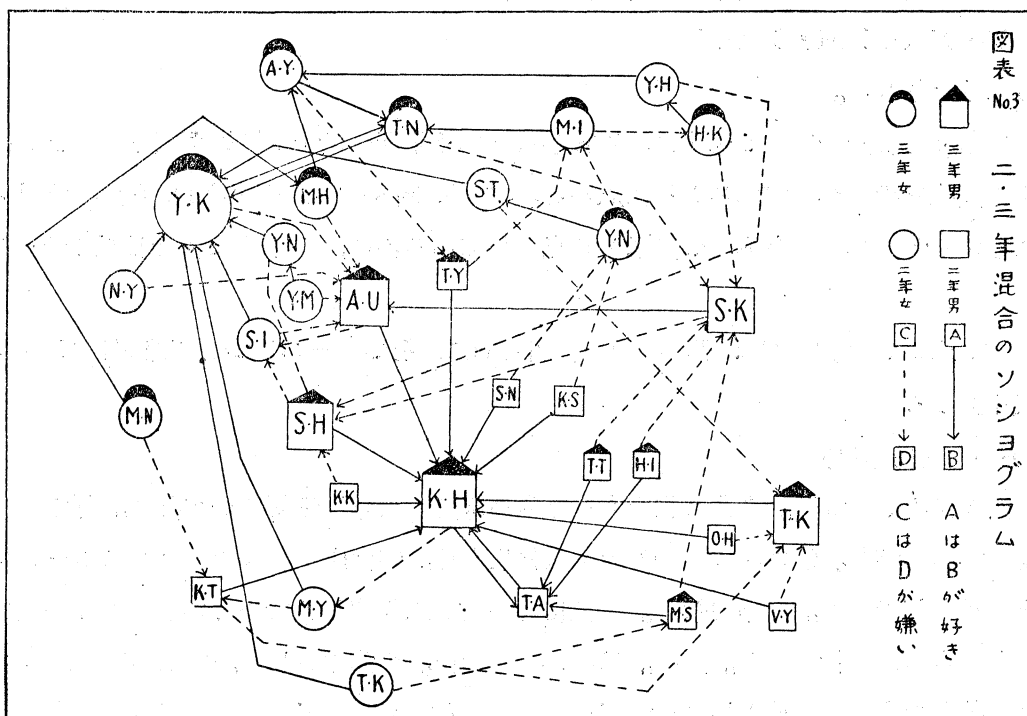
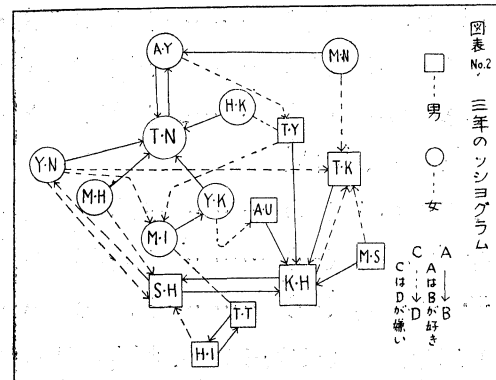
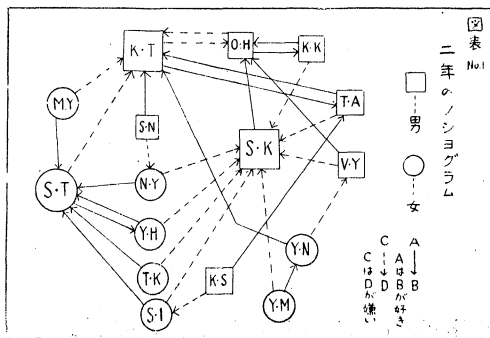
§ II ソシヨグラムにあらわれた學級社會の姿

- 1 調査実施 昭和27年7月14日
- 2 調査方法 質問紙法
- 3 調査事項

○年 氏名 ○ ○ ○ ○

1. 二年(又は三年)であなたの一番好きな人を書きなさい。
2. そのわけを書きなさい。
3. 二年(又は三年)であなたの一番嫌いな人を書きなさい。
4. そのわけを書きなさい。
5. 二年と三年をいっしょにした時一番好きな人を書きなさい。
6. そのわけを書きなさい。
7. 二年と三年をいっしょにした時一番嫌いな人を書きなさい。
8. そのわけを書きなさい。

この調査結果は、次の表である。



4 解釈 このソシヨグラムで気づく事は、

- (1) 二年生同志（又は三年）での対人関係が比較的単純であるが、二、三年混合（いわゆる複式）の場合は、複雑な対人関係が見られる。つまり二学年にわたる各個人の関係が興味深く見られる事である。
- (2) 同学年同志の場合の個人の位置と、複式におけるそれとに非常な変化が見られる。例えば、二年 S・K S・T T・K K・T 三年で Y・K K・H T・N A・U のように。二年同志（又は三年）における中心人物——問題児——と、複式におけるそれとの変化、これこそ二学年以上の児童が同一環境に育つための集団生活から生ずる対人関係の複雑にして顕著な変化と思われるのである。この点が複式学級の学級経営、個人指導の問題点であろうと思われるのである。以下この点から考えを進めてみたい。

今このあらわれを主な子供のみについて見ると、

(A) (+) の子供。

両 学 か ら (+) ……三年男 K・H

二年の多くから (+) ……三年女 Y・K

三年の多くから (+) ……二年男 Y・A

(B) (-) の子供。

二年の多くから (-) ……三年男 T・K, S・H

三 年 か ら (-) ……二年男 S・K

女 子 か ら (-) ……三年男 A・U

(C) 二年同志 (又は三年) の場合に比べて、あまり注意をはらわれなくなる子供。

二年 S・T (+) K・T (+) O・H (+)

三年 T・N (+) M・I (+)

のように分けられる。

今ここに挙げられた十二名の児童は、複式学級という集団生活上の問題児 (+・-ともに) として、大きな意味を投げかけているように思われる。(勿論、個人的に或は家庭的に指導を要する児童はこの他にもいるが、学級社会構成の問題を焦点としている為に、これらの児童は此の際一応取り上げない。)

以下、この三つの A, B, C の型に従つて各個人別に、そのケースについて略記してみる。

先ず (+) のうち

K・H (三年男)

○家庭、四人兄弟の末つ子。商業 (相当大的な醸造販売) 教育に理解あつて熱心。遊びに来る友だちを非常にかわいがる。○知能優、○学力全教科最上位。○健康上。体力すぐれスポーツマン、走、跳、懸垂、角力何でも上。○腕力級一。○性格男性的。正義感旺盛で小さい者、弱い者にかわいがる。思考力に富み、実行力あり。果敢。○好かれる理由。心がやさしい。おこらない。かわいがる。いつしよに遊んでくれる。仲よしになつてくれる。けんかをとめてくれる。以上のような点からして、この子は学級の人望を一身に集めていると思われる。しかもあらゆる点で優秀児で、学級のリーダーとして活躍中。

Y・K (三年女)

○家庭父大学教授。姉二人、末つ子。非常にかわいがられて育つ。教育豊かな平和な家庭。○知能優。○学力上、特技図画。油絵をよくし、夏休み作品展に学校長賞 (校内一人)。○健康体は小 (セツ学校、三月生れ)。スポーツをよくする。リレー選手。○性格春風のような感じの子。人にとってもかわいがられる。小さい近所の子供たちをよくあやしてくれる由 (母の言)。○好かれる理由。心のやさしい人。いつしよに遊んでくれる。仲よくしてくれる。かわいがつてくれる。勉強をよく教えてくれる。

この子は三年から (+) は一人で、二年から六人もあるのは興味深い。年令的に二年生に近い事と、三年生がその能力に多少の嫉妬心を持つようにも感じられる。下学年のリーダーに適任。

T・A (二年男)

身体小。とてもかわいい顔立ち。性明朗。故に三年生がかわいく思うのであろうか。三年からのみ(+)。

つぎに(一)の子供について。

T・K **S・H** (三年男)

兩人とも二年から嫌われているがその理由として「いじわる。なぐる。なんくせをつける。遊びのじやまをする。人のいやがる事をする。いつしよに遊ばぬ」というように出ているが、これが二年生からであるのは特に注意すべきである。思うに此の二人は体育的に三年生に劣り(二人とも二月生れ)、性格的に強者にへつらい、弱者につらく当るようで、三年からあまり相手にされない傾向にあり、その補償作用として二年に向けられ、暴力として表現されていると解釈される。**T・K**は兄二人第一人の三男、**S・T**は姉二人妹一人の三番目の子である事なども何か関係がありそうである。此の二人の二年生に及ぼす影響が大きい事を考える時、大いに指導を要すると思われる。

A・U (三年男)

姉二人、兄二人の末つ子で甘やかされている。少々我儘。明朗なれども、元気旺盛で当るべからざる精力家。「いじわる。人をなぐる」ために嫌われる。その行動が稍粗暴な点もあり。女子からばかり嫌われている点要注意児童。

S・K (二年男)

○家庭一父公務員。やや酒飲み。姉二人第一人。睡眠充分。我儘に育てる反面厳格な点もあり。○能力普通、○性格衝動的で思い立つたら前後の判断を忘れる。注意散漫。協調性に乏しく、反社会的。巧みに嘘言を吐き、盗癖をもつ。困つた時すぐ泣く。○嫌われる理由。三年のじやまをする。三年のいいつけをきかぬ。勉強中人に迷惑をかける。人をなぐる。いじわる。うそをいう。よく泣く。

この子は以上の点からして、社会性の欠除とも云うべきであつて、採導上問題が多い。

三番目に、同学年同志の時に比べて、複式がうすられる五人の児童については、特別に問題がないようであるから略する事にする。

§ II ソシヨグラムと學級經營

以上この學級のソシヨグラムにあらわれた問題点にふれてみたが、要はこのようなあらわれを基礎にして、どのような方向に、どのような方法で理想的な人間完成へと指導するかである。

思うに個人の幸福は全体を離れてはなく、全体は個人の幸福の上に存立している。このソシヨグラムを通して感じられる事は、(1)長幼二学年混合の社会をどのようにして快的な社会に建設していくか——學級全体の問題。(2)このような學級に育つ子供たち(将来は更に複雑な社会が待つてゐる)の一人一人をどのようにしてその生存する社会に順応し、個性を生かしつつ社会に貢献できる個人に育成するか——個人の問題。(3)二年、三年という學級はどのような社会形態をとるものであろうか——シーケンスの問題。というような事である。

このような点について、複式學級という立場に立つて方法が構じられる時に、複式學級の經營の鍵が開かれる事と信ずる。現在私がとつてゐる方法としては、①個人指導、②全体指導とに二大別

して考えて行く事になっている。

先ず第一の個人指導の点については、近來ガイダンスの体系的指導法が確立して来たので一般的方法は略して、複式編成の長所に立つた場合のみ抽象して述べてみたい。それは、二年生の各児童に、三年生をそれぞれ世話係をきめてやる。(お当番さんとよんでいる) この世話係は、当番生の朝夕一切の世話、生活態度、躾、学用品、行儀、諸所持品、宿題、病気やけがの時の世話その他一切の指導監督の責任を持たせ、一学期毎に相手を替える。この時の組み合わせの折の条件として、性格、能力、体力、家庭、住所等考慮しているが特に、このソシヨグラムを利用して組み合わせるとより効果があがるようである。問題児には特に注意を払っている。例えば、二年男 S・K は、好きな三男 A・K と組み合わせ、気の小さい二年女 Y・N には三年 Y・K を、あばれん坊の三年男 K・T には三男 K・H を、三男の問題児 T・K は二男 T・A によつて救われるようにしている。この二人は、互に愛情を以て結ばれ、案外反抗心や依頼心の起る事も防げるようである。

第二の学級全体の場合であるが、第一に各種の自治組織による指導に意を用いている。この級には現在、出席係、学級文庫係、学級園係、体育係、学習係、定期券係などの組織、五組よりなる週番など設けているが、此の際、ソシヨグラムによるグループ構成を考慮している。又学習時のグループ構成など、両学年混合の場合など、特に重要で、三男 H・K のグループに三男の T・K や S・H、二年男 S・K などを入れてやると実に K・H がリードして行くようである。それから、二年だけ又は三年だけの自習時間など図表 No.1 による S・T の活用、No.2 による K・H や Y・K などをリーダーとして学習を進めさせるなども一方法である。

この他、課外運動、学級 P・T・A などの活用、教師対児童個人の相談の日を設けたりしているが、日暮れて道遠しの感がする。今から出発だという毎日の生活が教育の姿なのかも知れない。

§ 4 残された問題

以上私のとつている方法の一断片を述べてみたが、更に次々と問題が残つて行くようである。例えばこのソシヨグラムの信頼度の問題がそれである。このソシヨグラム調査の原因は、二年男 S・K がこの頃或問題を起こして本人の立場が苦しくなつた時に、果して級友間ではどのような関係にあるかを見たいと思つて調査したのであるが、こうした調査をいつどのような方法ですか、それを如何に解釈するか、今後再び調査する時の状況等、或は又複式学級経営上、複式学級という編成の持つ宿命的な欠陥——例えば上下の関係に立つ社会性は培われるにしても、その関係が小さく鎖された社会性で、横のつながりの少い社会性に陥り易い点など。更に又学年段階の相違による変化の問題——これも、昨年一学期のソシヨグラムとは全然異つたあらわれを示しているのは単なる偶然ではなくて、学年の心理発達段階との関係が大きく原因しているように思えるし、又教師の指導力や指導法の問題等の関係もあろう。

何はともあれ、この三十二名のいとし子たちが、おのがじし神の祝福によつて生を享けたよろこびと共にすなおにおおらかに生長するようにと教師の願いの一こまでである。

(附属小学校)